

県外調査をふまえた議会改革の検討事項の提案について

議会運営委員会県外調査の調査内容において、今後の議会改革の取組の参考になる事例がありましたので報告し、今後の検討を提案します。

調査日程

令和4年8月8日(月)から9日(火)まで

調査先

茨城県議会(8日) 取手市議会(9日)

1 インターネット中継への字幕の表示などAIを活用した文字起こし(取手市議会)

(1) 目的

- ・インターネット中継に字幕を表示することにより、多くの方に発言の内容がわかりやすく、また、難聴者や聴覚障がい者への一定の配慮につなげるため
- ・会議録作成のスピード化、負担軽減
- ・オンライン会議時に会議出席者が当日の発言認識結果を振り返って確認でき、議論の聞き逃しや行き違いを改善するとともに、議論を深化させるため

(2) 内容

- ・AIにより文字起こしをした発言内容を、インターネット中継(ライブ・録画)に字幕として流す
- ・発言者の話す速度等により正しい言語表示がされない箇所も多くあるため、字幕はAI認識ですと注意書きを入れている
- ・会議録は速報版として、議会事務局職員が1回の校正後、ホームページに掲載



2 会議録視覚化システム（取手市議会）

(1) 目的

- ・市民の理解度や議会への関心向上を支援
- ・会議の全体像を視覚的に把握できる

(2) 内容

- ・取手市議会と「音声テック関連技術連携協定」を結んだ(株)アドバンスト・メディアにより、AIと自然言語処理技術(人間が日常的に用いる言語を機械で分析)を活用して開発したシステム
- ・会議の内容から自然言語処理技術により単語の重要度や関係性を解析し、発言内容から頻出語や重要語をAIが分析し、色・サイズに分けて表示
- ・表示された単語をクリックすると、関連する発言の全文が確認できる

